

BIMONTHLY REPORT

バイマンスリーレポート
No.
388 SENDAI KEIZAI DOYUKAI
2018.2.20

仙台城大手門脇櫓



伊達政宗書状



伊達政宗画像



角田のお雛様

【特集】

最後の戦国武将といわれているけれど

家庭人、文化人として 細やかな気遣いの人だった 伊達政宗

【巻頭言】

自由闊達な提言ができる
経済団体として仙台を
快適に暮らせる「リゾート」に!

株式会社 藤崎 代表取締役社長／藤崎 三郎助

例会ダイジェスト

明日を考え未来を語る

高齢者や障害者など
多様な人材が活躍する企業の秘訣

自由闊達な提言ができる

経済団体として仙台を
快適に暮らせる「リゾート」に！

現在、仙台商工会議所や東北経済連合会など、仙台ではそれぞれに特徴や使命の異なる経済団体が活動しています。その中であって、仙台経済同友会は、有志が活動する任意団体として、どこに対しても自由闊達な提言ができるのが大きな特徴かと思えます。

宮城県の人口220万に対して、仙台市は約110万。仙台一極集中との批判も耳にしますが、批判は甘んじて受け入れるとして、空港があり、港湾があり、新幹線や在来線、高速道路が整備された交通の要所でもあり、仙台の発展なくしては、宮城県、ひいては東北全体の発展もないと考えます。

私の父が代表幹事を務めていた時代は、まだ東北新幹線ができるかどうかの頃で、仙台空港国際化推進協議会という組織があって、大型機に対応する3000m滑走路建設の実現化を目指していたと記憶しています。今はインバウンドが大きなテーマとなり、訪日外国人の宿泊施設や観光資源の整備が注目されていますが、当時は海外旅行が身近になり、日本人がすごい勢いで海外へ出かけていった時代ですね。そうした意味では、時代の急速な変化を感じます。

では、これからの仙台経済同友会は何を目指すのか。それは、「リゾート」としての理想の都市づくりではないでしょうか。一般的にリゾートのイメージは、風光明媚で、温泉があって、温暖な気候で、のんびり過ごせるなど、さまざまな条件が想起されるかもしれません。しかし、景勝地や温泉は必ずしも必要ではありません。「そこに住む人が快適に暮らせる

街」、それが私の意味するリゾートです。仙台は、交通も至便で、都市の規模としても大きすぎない、落ち着いた雰囲気のある街です。今年は例年になく寒かったので力説しづらいのですが、降雪量や冷え込みといった冬の気候を考えても、許容できる範囲ではないでしょうか。実際に、仙台に赴任した支店長さんたちが、自宅を建てて老後もこちらで暮らしている数多くの例を見ると、全国的に見ても仙台は暮らしやすい街だ、と評価されていることが分かります。

もちろん人口減少や、高齢化など、日本全国で起こっている問題は仙台も例外ではありません。しかし、高齢化で言えば、現在の70代とひと昔前の70代の人を比較すると、だいぶ状況は違っています。私の周囲の70代はふつうに仕事をし、ふつう以上に活躍している人がほとんどです。とくに私たちは団塊の世代ですから、今の出生率年間100万人に対して、260万人の人口がいます。働ける260万人が頑張るならば、現状はそう悪くはないのではありませんか。世の中、暗いことばかりに目を向けるのではなく、現状をありのままに見据える視点が大切だと考えています。ゆくゆくは介護問題なども出てくるでしょうが、それも先進の科学技術の導入など、解決の方策は探れることでしょう。

会員300名を超えるまでに組織の力をつけた仙台経済同友会、今後も、自由闊達な提言と行政との連携で地域発展を支援する経済団体として、活躍を続けていくことを期待しています。

「明日を考え未来を語る」

仙台経済同友会では会員の啓発活動として、毎回多彩な講師を招いて例会を開催しています。新時代を生きる経済人として有用な先進の知識や話題など、各例会のエッセンスをぎゅっと凝縮して発信するページが「例会ダイジェスト」です。ぜひお役立てください。

2018年2月の月例会では、下記の講師にご登壇いただきました。講演内容(抄録)を仙台経済同友会のホームページに掲載しております。

高齢者や障害者など 多様な人材が活躍する企業の秘訣

京都産業大学 経営学部教授

大室 悦賀氏

持続可能な企業をつくるには、多様な人材を積極的に活用しようという考え方が不可欠です。高齢者や障害者など多様な視点をもった人それぞれの能力をいかに最大化できるかが重要で、それには人に着目した働き方改革がカギです。



◎講師紹介

京都産業大学 経営学部教授

大室 悦賀氏

1961年東京都生まれ。

一橋大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。1985年東京都府中市入職。2007年京都産業大学経営学部専任講師。2015年4月より京都産業大学経営学部教授に就任。社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・ビジネスをベースにNPOや企業、行政のセクターを研究対象として、全国各地でアドバイスや講演を行っている。「サステイナブル・カンパニー入門」「ソーシャル・イノベーション」「ソーシャル・ビジネス：地域の課題をビジネスで解決する」「NPOと事業」など著書多数。

平成30年の新年会を盛大に開催

当会では、新春を寿ぎ会員の交流を深めるため、

毎年1月に新年会を開催しています。

今年は1月25日に勝山館において、

仙台市長・郡和子様、宮城県知事代理副知事・山田義輝様をお迎えし、

総勢106名で執り行いました。

大山健太郎代表幹事の年頭挨拶、お二人の来賓からの祝辞、

一力雅彦代表幹事の乾杯後、

参加者一同が大いに交流を深め、藤崎三郎助副代表幹事の

中締め挨拶をもって盛会のうちに終了しました。



a. 郡和子市長の挨拶



b. ご歓談の様子



c. 大山代表の挨拶



d. 藤崎副代表幹事の挨拶

[特集]

伊達ものがたり2

最後の戦国武将といわれているけれど 家庭人、文化人として細やかな気遣

前回は、すぐれた政治家、経営者だった伊達政宗について紹介しましたが、今回は仙台市博物館学芸員の佐々木徹さんに手紙から読み解く政宗の人間像について伺いました。さまざまな手紙から、戦国武将というイメージとは違う細やかな気配りと情愛を持つ父親であると同時に、仙台藩の発展と安定のために心を砕いた名君の顔が見えます。



さ さ き とおる
佐々木 徹さん 仙台市博物館学芸員

Profile
東北大学大学院国際文化研究科博士課程修了後、仙台市博物館に勤務。専攻は日本中世史・近世史。「仙台市史」の資料編・伊達政宗文書や特別編・慶長遣欧使節の編集、2017年秋の特別展「伊達政宗-生誕450年記念」を担当。
問/仙台市博物館 ☎022-225-3074

葛時絵文箱(瑞鳳殿発掘資料) 仙台市博物館蔵
副葬品の一つ。筆まめだった政宗愛用の文箱とみられ、筆がたくさん入っていた



自筆の手紙が1300通も残っており、自筆にこだわる“筆まめ武将”だった

Q 伊達政宗は数多くの手紙を残しているということですが、どのくらいの数になるのですか？

政宗が生涯を通じて発給した文書は、現在のところ約4500通確認されています。そのうち原本が確認されているのは2200通。一番の特徴は自筆の文書がとても多いことで、約1300通残っています。当時の武将たちは、おそばにいる右筆(専任の書き役)に手紙を書かせ、自分で書くのは花押と名前だけ、ということが多かったのですが、政宗は、花押と名前はもとより本文、日付、宛名まですべて自筆という文書が多いのです。その中でも自筆の手紙が圧倒的に多くみられます。

ちなみに、天下人といわれた3人の手紙を見てみましょう。織田信長は約1400通のうち自筆は10通あるかないか(確実に自筆とされるのは3~4通)。豊臣秀吉は約5000通のうち自筆は約120通。徳川家康は約2700通のうち自筆は30通程度です。

政宗は刀のみならず筆を執ることも大切にしていた“筆まめ武将”でもあったのです。

自筆が多い理由はいくつか考えられます。

政宗はなんでも自分で決めて、指示を出すのも自分でないと気がすまない性格であったろうといわれています。こうした性格的な側面に加え、自筆のほうが手紙を送られた相手にも気持ちや意図がよく伝わり、信頼関係が築けることも分かっていたのではないのでしょうか。

政宗は、戦国の世が終わって岩出山から仙台に拠点を移し、多くの家臣を抱えながら、城づくり・町づくりを行い、領内の発展と安定に邁進しなければならない時期に、自筆の手紙で政策的な指示を度々与えています。いわば、初代創業者として奮闘する中で自筆書状を多用していたのです。

武家の世界のみならず、天皇家や公家など、多方面に交流がありましたが、忙しくて自筆でないことを詫言った手紙や、息子の一人に「手紙は自筆で書くように」と書いた手紙などが残っており、自筆にこだわった藩主でした。

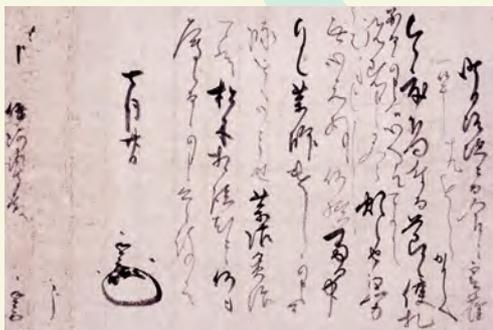
次代を担う息子たちにはアドバイスを書き、娘たちには情愛のある手紙を書く

Q 他にどんな特徴がありますか？ 誰宛に書き送った手紙が多く残っているのでしょうか？

他家の大名・家臣や自らの家臣宛ての手紙が多いですが、家族に宛てた手紙もよくみられます。政宗は正室愛姫との間に4人、側室6人との間に10人の子供をもうけました。十男四女の子たくさんでしたが、一人一人に愛情を持って接していました。

その中で、息子たちにはいろいろ気遣いながら「この時にはこういう

ことに気を付けたほうがよい」「こうしたことを心がけなさい」というアドバイスを書き送っているのも特色。たとえば「将来のためにならないから浪費は慎むように」「弟たちへの指導・助言をよろしく」「茶の湯や香道、和歌などにもっと親しむように」「和歌を詠むときにはこういう言葉に気をつけなさい」「お酒を飲み過ぎないように」などと実にこまごまと



伊達政宗書状
伊達宗清宛
慶長18(1613)年7月20日
仙台市博物館蔵
仙台にいた政宗が、病床にあった三男宗清に宛てた自筆の手紙。宗清の病状を心配し、薬師を遣わすので薬や灸で治療するようにと書いている



伊達政宗書状
牟宇姫宛
寛永11(1634)年6月22日
仙台市博物館蔵
京都にいた政宗が、江戸から京都までの道中の様子や、京都に入ってからの様子などを伝えた自筆の手紙。娘を安心させようと送ったものであろうか

いの人だった伊達政宗



鉛筆(瑞鳳殿発掘資料)
仙台市博物館蔵



出土品をもとに復元した鉛筆
仙台市博物館蔵

伊達輝宗画像 長谷川養辰筆 仙台市博物館蔵

伊達政宗の父輝宗(1544年～1585年)の肖像画。輝宗は政宗が18歳の時に隠居したが、翌年二本松城主・畠山義継との戦いで殺された



伊達政宗画像 狩野安信筆 仙台市博物館蔵

政宗の死後描かれたもので、政宗の遺言で両眼が描かれている。絵の左上の漢詩は政宗が晩年に作ったもの。「少年時代は戦場で過ごしたが、平和になった今は白髪の年寄りになった。残りの人生は天が与えてくれたもの。楽しまないではいられようか」という意味。仙台藩の安泰を見届けた晩年の心境が分かる漢詩といえる

書いていたことが、これまでも知られています。

嫡男忠宗(母は正室愛姫)には子供たちの中で最も多い84通の手紙が確認されています。

徳川家の養女を正室に迎え、次の藩主として重責を担う忠宗のことは何より気がかりだったに違いありません。もちろん、三男、四男たちもいずれ地方の領主となり家臣を抱えて領内を切り盛りしていくわけですから、忠宗ほどの数は残っていませんが、近況報告や心構えなどをいろいろ書き送っています。息子たちにとっては少々うっとうしい父親だったかもしれませんが(笑)、政宗としては将来を考えてどうしても伝えなければならぬと思っていたのでしょう。

一方で、娘たちには本当に情深い父親でした。どの子供たちにもたくさんの手紙を書いていたと思うのですが、角田領主石川宗敬に嫁いだ牟宇姫(母は側室於山の方)に書いた手紙は300通以上あったと

もいわれています。その中で内容が確認されているのは約50通。「今、京都に向かっていきますよ。旅の途中の様子はこんなでしたよ。江戸へ向かう饒別として錦を送ってくれてありがとう。出立の前にお前に会えないのは大変残念だ」などと書いています。実に優しい父親ですし、日常的な交流の様子もよく分かります。

長女の五郎八姫(母は正室愛姫)に宛てた手紙は、現在のところ2通しか確認されていません。五郎八姫は徳川家との政略結婚で松平忠輝(家康六男)に嫁ぎましたが、忠輝が改易となったことから離縁となってしまいました。徳川家との縁がありながら、20代前半で夫と別れなければならなかった娘のことは特に気にかけていたようです。別の人への手紙の中で「ずっと江戸にいさせるのは不憫なので、五郎八姫は仙台に下向させたい」と書いており、仙台に戻ってからは仙台城の一角の西屋敷(西館)に住ませました。

家族を大切に、多彩な趣味は人脈作りにも役立て、仙台藩の礎を築く

Q 政宗の手紙を通じて、仙台経済同友会にメッセージがありましたらお聞かせください。

伊達家では政宗以前は骨肉の争いも多かったのです。1500年代前半、政宗の曾祖父・植宗と祖父・晴宗の親子の対立は、周辺の大名家をも巻き込んで南東北全体を戦乱に落とし入れました。祖父・晴宗と父・輝宗も数年間の確執がありました。こうしたことから輝宗は「親子で争うなどして家中が乱れると領内の統治や対外関係にも影響を与える」と考え、政宗に接していたのではないのでしょうか。政宗も父の様子から家族の関係をとくに大切にしたいのではないかと思います。

また、政宗は文化人として知られており、実に趣味は多彩。当時の藩主の教養だった茶の湯、和歌、連歌、漢詩はもとより、狂歌、香道、能などにも造詣が深く、鷹狩や川狩(魚捕り)、砲術などの趣味も嗜んでいました。しかしそれらは、単に趣味として嗜んでいただけではなかったと思います。

手紙から見ても、茶の湯や和歌などを通じて、江戸幕府の将軍や重臣、京都の公家たちなどとも交流があることが分かります。鷹狩などの獲物は将軍や大名たちへの贈り物としてしたりしました。

政宗にとってオールマイティの趣味は楽しみでもあったと思いますが、人脈作りのアイテムだったともいえます。現代の経営者たちが趣味のゴルフなどを通じて親しくなったり、パーティで交流したりして情報交換の場になっているのと同じような意味合いがあるのでしょうか。

こうしてみると、家族を大切にしながら文化人として京や江戸とのパイプを持ち続けたことが、その後の約270年間続く仙台藩の礎を築くのに大いに役立ったと考えられます。会社の経営の安定とさらなる発展に邁進している現代の経営者の方々にもヒントとなるのではないのでしょうか。

[特集]

伊達ものがたり2

政宗の子供たち その後

政宗からそれぞれ愛情を注がれた十男四女の子供たち。残念ながら夭折、早世したりした子供も少なくありませんが、歴史に名を残したり、領民に慕われた領主となったり、嫁ぎ先で平安に暮らしたり…それぞれの道を歩んだ子供たちについて紹介します。

正室 愛姫 との子供たちは

長女・五郎八姫 夫と別離後仙台へ移り住む

文禄3年(1594)生まれ。男の子のような名前は、次は男子を授かるようにという政宗の願いからつけられたものという説もある。13歳で徳川家康の六男松平忠輝と結婚し、忠輝とともに越後高田藩(新潟県上越市)に移住。しかし、忠輝が改易を命じられたことで別れることに。江戸で母の愛姫と暮らした後に元和6年(1620)に仙台に移住。68歳で亡くなった。

嫡男・忠宗 守成の名君*と讃えられる2代藩主

慶長4年(1600)生まれ。正室は徳川秀忠の養女で徳川家康の孫娘の振姫。寛永13年(1636)政宗の死去に伴い、2代藩主となる。政宗の後を継いで、藩の組織体制、法体制や経済基盤を整えた。その業績から「守成の名君」と讃えられる。政宗の墓所・瑞鳳殿や徳川家康を祀る東照宮のほか、愛宕神社など神社仏閣も造営。万治元年(1658)に60歳で死去し墓所は瑞鳳殿の隣の感仙殿。

5男・宗綱 16歳で早世した岩ヶ崎領主

慶長8年(1603)生まれ。栗原郡岩ヶ崎3万石の領主となるが、元和4年(1618)に享年16歳で早世。

8男・竹松丸 父、母も夭折を嘆く

わずか、7歳で元和元年(1615)に夭折。輪王寺に埋葬されたが、母愛姫は菩提を弔うために江巖寺(青葉区柏木3丁目)を建立。父政宗も夭折を嘆く和歌を残している。

*守成の名君…創業者の後を受け継いでその事業を確固たるものにするという意味

側室 於山の方 との子供たちは

6男・宗信 岩ヶ崎領主となるが若くして没する

慶長8年(1603)生まれ。栗原郡岩ヶ崎領主となった宗綱が早世したため、その跡を継いで岩ヶ崎領主となった。しかし、宗信も25歳で没し跡継ぎがない岩ヶ崎の居館は廃絶となった。

7男・宗高 刈田岳噴火を鎮めた領主として慕われる

慶長12年(1607)生まれ。柴田郡村田を領有した。蔵王の刈田岳の噴火を祈祷師と共に鎮めたといわれており、刈田岳山頂には「宗高公命願の碑」がある。噴火を鎮めた領主として慕われたが、天然痘で20歳で亡くなった。宗高については村田町歴史みらい館で紹介している。

2女・牟宇姫 子供にも恵まれ、穏やかな一生を送る

慶長13年(1608)生まれ。12歳で伊具郡角田の石川家に嫁ぐ。3男2女を授かり、政宗亡き後は母於山の方を角田に住ませた。享年76歳。角田市郷土資料館の企画展「雛人形」では、輿入れの際に持参したと伝えられている雛人形等も展示される。



◀女雛は高さ45cmもあり、伊達家家紋入り雛用お膳などもセットになった豪華な雛飾りは必見!

角田市郷土資料館 企画展「雛人形」

2月17日(土)~3月18日(日)
開館時間:9~16時30分
入館料:大人300円
高校生250円
中学生以下無料
(写真提供:角田市郷土資料館)

雛人形

側室 新造方 との子供たちは

長男・秀宗 10万石の宇和島藩の初代藩主に

天正19年(1591)生まれ。豊臣秀吉、次いで徳川家康の人質として仕えた。正室は家康の重臣・井伊直政の娘亀。慶長19年(1615)の大坂冬の陣に父政宗と共に陣出し、その功により、初代伊予宇和島藩主となった。政宗は10万石の藩主となった秀宗に自分の家臣を伴わせ、浪費を戒める手紙を送るなどいろいろと気にかけて。万治元年(1658)に68歳で没した。



宇和島城

▲国重要文化財の天守

3男・宗清 養母に育てられ吉岡領主となる

慶長5年(1600)生まれ。母は4歳の時に亡くなり、豪族飯坂氏の養嗣子となった。黒川郡3万8千石の吉岡領主となり、養母飯坂の局と共に移り住んだ。子に恵まれないまま享年35歳で死去。

側室 莊嚴院 との子供は

9男・宗実 巨理伊達家の2代当主となる

慶長18年(1613)生まれ。巨理郡巨理領主伊達成実の養子となり2代当主となる。嫡男宗成が3代当主となる。53歳で死去。

側室 法性院 との子供たちは

3女・岑姫 涌谷領主正室となるも20歳で亡くなる

元和2年(1616)生まれ。12歳で遠田郡涌谷領主伊達宗実の正室となった。子供が授からないまま20歳で亡くなり、夫も4年後死去。

10男・宗勝 伊達騒動(寛文事件)の中心人物

元和7年(1621)生まれで、政宗晩年の子として可愛がられた手紙が残っている。別名伊達兵部として名高く、一関藩主となったが伊達騒動(寛文事件)の中心人物として知られる。騒動で処分され一関藩は改易となる。その後土佐藩にあずけられて58歳で没。

側室 祥光院 との子供は

4男・宗泰 岩出山伊達家の初代当主に

慶長7年(1602)生まれ。玉造郡岩出山の領主となるが、主に江戸で暮らした。寛永15年(1638)に享年37歳で没する。

側室 本寿院 との子供は

4女・千菊姫 10歳で丹後宮津の京極家に嫁ぐ

寛永3年(1626)生まれ。10歳で京極高国の正室となる。高国はこの時20歳。4男2女に恵まれたものの30歳で病没。

新入会・交替会員紹介

会員総数 315名 (2018年1月31日時点)

入会 (1名)



会員
石井 勇輝様

みらいコンサルティング株式会社
仙台事務所長

交替 (2名)



会員
岸浪 行雄様

株式会社 東北共立
代表取締役社長



会員
桑原 啓守様

仙台サンブラザ株式会社
総支配人

季節の祭り、イベント情報



まつり・歴史

3月3日(土) 4日(日)

[時間] 10:00~15:00



むうむめ

第7回かくだ牟宇姫ひなまつり

伊達家ゆかりのあでやかなお雛さま

角田市郷土資料館に、伊達政宗公の次女牟宇姫が角田に嫁ぐときに持参したと伝わる雛人形や、伊達家の家紋が入った蒔絵の道具類を展示 (2月17日~3月18日)。合わせて、3月3日~4日は角田市内中心商店街でつるし雛の展示やスタンプラリーなど多彩なイベントを開催。

- お問い合わせ / TEL.0224-63-2120 (角田市商工観光課)
- 会場 / 角田市郷土資料館 (角田市角田字町17)、角田市中心商店街ほか
- アクセス / 阿武隈急行線。角田駅から徒歩 20分
常磐道・山元 IC から車で 15分
- 駐車場 / 40台 (角田市郷土資料館)



まつり・伝統

3月10日(土)

ほてまつり 帆手祭

勇壮な“しおがまさまの荒みこし”

奥州一宮の鹽竈神社の早春の神事。重さ1tもの神輿が16名の担ぎ手によって、202段の急な表参道 (通称、男坂) を下りる様子は圧巻だ。お帰りの神輿が表参道を上る様子も迫力満点。稚児行列を従えた市内の御神幸など、港町塩竈が活気にあふれる春の風物詩。

- お問い合わせ / TEL.022-367-1611 (志波彦神社・鹽竈神社社務所)
- 会場 / 鹽竈神社 (塩竈市一森山1-1)、塩竈市内
- アクセス / JR本塩釜駅から徒歩 10分
仙台市内より車で約 45分
- 駐車場 / 300台



まつり・歴史

3月27日(火) → 4月2日(月)

はつうまたいさい

初午大祭 竹駒神社

歴史絵巻のような大名行列を再現

日本三稲荷のひとつ竹駒神社の最大の祭。五穀豊饒、商売繁盛、家内安全を願って、大勢の参拝客が訪れる。祭り最大の見どころは4月1日に行われる神輿渡御と竹駒奴の行列。揃いの半纏に身を包んだ30数名の竹駒奴の練り歩きや、「毛槍投げ受け」の妙技は必見だ。

- お問い合わせ / TEL.0223-22-2101 (竹駒神社社務所)
- 会場 / 竹駒神社 (岩沼市稲荷町1-1)
- アクセス / JR岩沼駅から徒歩 15分
仙台東部道路・いわぬま IC より車で約 5分
- 駐車場 / 280台



まつり・文化

4月1日(日)

おばさまのえんねん 小迫の延年

古来のまつりを今に伝える

国の重要無形民俗文化財。「延年」とは平安から室町時代にかけて、僧侶や稚児たちに盛んに行われた遊演舞台のひとつ。白山神社の例大祭として、春の農耕期を前に豊作を願って行われてきた伝統の祭事。古式ゆかしい祭りを堪能しよう。弓道大会も同時開催。

- お問い合わせ / TEL.0228-42-1473 (若柳金成商工会金成支所)
- 会場 / 白山神社 (栗原市金成小迫山神77)
- アクセス / JR仙台駅前から東日本急行バスで約 90分
東北道・若柳金成 IC より車で約 10分



ピックアップ瓦版

アイベックスエアラインズ

浅井孝男社長

仙台空港を拠点とするアイベックスエアラインズ（東京）の浅井孝男社長は仙台市内で河北新報社の取材に応じた。同社は25日、宮城県と包括連携協定を締結。観光振興など地方活性化の支援や空港の拠点性向上に意欲を示した。

（聞き手は報道部・加藤健太郎）
— 事業環境の現状と先行きをどうみているか。

「人口減が進む中で人口移動がクローズアップされている。企業も人も東京に集中して地方は疲弊しつつあるが、全てが東



あさい・たかお 電気通信大短大部卒。1974年日本デジタル研究所入社。企画本部長、総務本部長などを経て、2016年1月からアイベックス社長。69歳。新潟県魚沼市出身。

地方活性化支援に力

自治体と連携都市間結ぶ

京や大阪に向かうわけではない。陸路で行きにくい地方の中

核都市をしっかりと結ぶ。ニーズは確実にある」
— 地方との連携に力を入れる狙いとは。

「企業の持続的成長には社会

から必要とされるものが絶対条件。地方都市間をつなぐ航空会社として活性化策に取り組み。自治体や経済団体、企業などを巻き込みながらさまざまなアイ

白さを提供するような場もつくりたい」
— 就航先との都市間連携をどう考えるか。

デアを出し合いたい。ビジネスにも良い影響が生まれる。まずは宮城からだ」
— 協定締結は初となる。

「例えば欧米系の旅行者が多い広島で東北の魅力を伝え、足を運んでもらえるような仕掛けもできる。宮城とは力キ生産が盛んな共通点もあり、都市の関係性が生まれる。地方都市間を結ぶわれわれにしかできないアプローチだ」
— 地元に着した企業活動への期待は大きい。

「県の観光キャラクターを描いた機体が全国を回れば興味を引くはずだ。空飛ぶ情報媒体として文化、観光、東日本大震災からの復興状況なども発信する。機内では県産の飲み物を出したい。商品開発など起業の面

「社員300人中70人程度、客室乗務員70人中40人が東北出身者だ。社員200人が仙台近辺に住んでおり、実質は仙台、宮城の企業だと思っている。札幌（新千歳）線を復活させ、福岡線を増やし、拠点として仙台空港の力を高めたい」

（出典：河北新報 2018年1月26日（金））

次号の特集のご案内

今回は、伊達政宗の書状から、家族への思いについて特集しました。今後も随時、今に続く伊達な物語を紹介していきたいと思っております。ご意見、ご投稿をお待ちしております。なお、次号はトヨタ自動車東日本が取り組む「改善活動」についてその内容や成果についてご紹介いたします。

仙台経済同友会

BIMONTHLY REPORT

2018年2月号 No.388 平成30年2月20日発行

○発行人／大山健太郎 一力雅彦 ○編集人／川嶋輝彦 ○発行所／仙台経済同友会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング12階
TEL／022-223-8555 FAX／022-262-2650 URL／http://sendai-doyukai.org
製作・印刷／今野印刷株式会社